

やぶなべ会報

自然を見つめる「やぶなべ会」(青森)発行

誌名	やぶなべ会報
号/発行年/頁	22 / 2007 / 26-37
タイトル	青森県に関する名前を持つ昆虫
著者名	市田忠夫

自然を見つめる やぶなべ会 (青森)

青森県に関する名前を持つ昆虫

第31代 市田 忠夫

青森県の昆虫目録を作ろうと、1990年代の後半から、文献記録などを集めている。目録作り作業の方は、残念ながら目下頓挫しているが、その過程で判明した青森県にちなんだ名前(学名・和名)を持つ昆虫を紹介する。このテーマに関しては、既に2001年に「青森にちなんだ名前の昆虫」として、市史研究あおり4号128～129ページに掲載している。今回は対象範囲を県下全域に広げ、また本県に在住していた人名にちなむものまで含めて、改めて紹介する。

属名は記載時の名称で示したが、その後に変更されているものは、現在の所属を示した。シノニム(同物異名)として処理されているものは、わかったものについては現在適用されている名称も提示した。亜属があるものの亜属名については原則として省略し、本稿の趣旨に関連するもののみを示した。

地名にちなむものでは、津軽など広い範囲を示すものがあるので、そうした場合や、県人名に関係するものについては、わかる範囲で原産地(ホロタイプ標本の産地)を併せて紹介する。なお、チェックリスト等の二次資料から、青森県関連と推定したものの、原記載論文未見のものなどは、現時点では原産地をお知らせできなかったものがある。

また、あらかじめお断りしておくが、もちろん今回紹介できるものが全てではない。見ていない文献も多い上に、最近新しい文献の整理が悪く、見落としているものも多いと考えられるので、なにとぞご了承ください。

青森県から新種等として報告された昆虫については、山内智により、1992年に「青森県産昆虫資料をもとに記載された新種・新型の目録」として青森県立郷土館調査研究年報16号83～96ページに、2003年に「青森県産昆虫資料に記載された新種・新型目録(2)」として青森自然誌研究8号65～68ページに報告されている。参考になる資料だが、落としが目立つので、利用に当たっては注意が必要である。

内容に先立ち、滞在しての文献調査等に特に便宜を図っていただいた、青森市役所市史編さん室、北海道大学農学研究院、農業環境技術研究所、九州大学農学研究院・比較社会文化研究院の関係諸氏に深謝申し上げます。個人では、知人友人多数から援助を受けたが、いちいち羅列することは省略する。しかしながら尾崎俊寛氏には、貴重な19世紀の文献を自由に調査させていただいたり、甲虫について本稿に関連して詳しくご教示いただくなど、格別のご尽力をいただいたので、特に明記し感謝の意を述べる。

1. 青森県の地名にちなむもの

(1) 青森

- *Loxoblemmus aomoriensis* Shiraki, 1930 タンボオカメコオロギ(原産地は単に「青森」であるが、タイプ標本を採集したという松浦誠氏の書かれたものによると旧十和田湖町蔦とされる)
- *Nishiyana aomoriensis* Matsumura, 1917(アブラムシ科の1種、現在は *Prociphilus* 属:原産地は青森とだけあり、青森市内か県内のどこかかは不明であるが現黒石市の可能性がある)

- *Bembidion chujoianum* Jedlicka, 1962 アオモリミズギワゴミムシ (現在は *B. cnemidotum* Bates, 1883 ウスモンミズギワゴミムシのシノニム(同物異名)、すなわち同じ種類と考えられるので命名規約により古い学名が優先され、新しいものは棄却される:旧平賀町葛川)
- *Pterostichus (Abea) yamauchii* Morita, 1992 アオモリナガゴミムシ(八甲田大岳)
- *Colpodes aomorii* Jedlicka, 1955(本種は現在は *Colpodes aequatus* Jedlicka, 1936 ウスグロモリヒラタゴミムシのシノニムとされる:詳細産地不詳)
- *Tribalus yamauchii* M. Ohara, 1999 アオモリアナアキエンマムシ(旧岩崎村十二湖)
- *Cyphon aomorianus* Yoshitomi, 2005 アオモリホソチビマルハナノミ(八甲田城ヶ倉)
- *Podabrus aomoriensis* Takahashi et Okushima, 1999 アオモリクビボソジョウカイ (現在は *Asiopodabrus* 属:青森市火箱沢林道)
- *Mycetochara aomoriensis* Nakane, 1991 コクロヒメクチキムシ(鱒ヶ沢町)
- *Rhynchanenus awomoriensis* Roelofs, 1874 キタノミゾウ(現在は *Tachyerges* 属:青森湾)
- *Scolytus aomoriensis* Nobuchi, 1973 アオモリキクイムシ(青森市油川)
- *Polygraphus uchimappensis* Murayama, 1956 アオモリキクイムシ (本種は *Polygraphus granulatus* Nijima, 1941 のシノニムとされるが和名は有効。和名も前種とホモニム(異物同名)となっていて、いずれかあるいは双方を改めなければならないが、和名に関しては先取権の原則などはない:青森市内真部)
- *Culicoides aomoriensis* Kitaoka, 1991 アオモリヌカカ(東通村)
- *Illiberis aomoriensis* Matsumura, 1927(現在は *Illiberis pruni* Dyar, 1905 リンゴハマキクロバのシノニムとされる:詳細産地不詳)
- *Lymantria aomoriensis* Matsumura, 1922 アオモリマイマイ (現在は *Lymantria lucesens* (Butler, 1881) オオヤママイマイのシノニムとされる:詳細産地不詳)
- *Microplitis aomoriensis* [Munakata], 1912 アオモリコマユバチ(現在は *Microplitis russatus* Haliday, 1834 のシノニムとされるが和名は有効:詳細産地は不詳であるが、明治時代に青森県農事試験場が置かれていた青森市(旧新城村)石江付近である可能性がある)

(2) 陸奥(むつ・みちのく)

- *Sympetrum danae* (Sulzer, 1776) ムツアカネ(青森県では昔からほとんど記録のない種であり、八幡平などに産することが知られているので、ムツは東北地方を指すものと考えられる)
- *Nipponomeconema mutsuense* Yamasaki, 1983 ムツセモンササキリモドキ(旧十和田湖町蔦温泉)
- *Leptocarabus arboreus nepta* Ishikawa, 1984 ムツクロナガオサムシ(コクロナガオサムシの亜種:むつ市恐山)
- *Trox mutsuensis* Nomura, 1937 ムツコブスジコガネ(恐山)
- *Epilichas flabellatus mutsuensis* Nakane, 1958 ムツエダヒゲナガハナノミ(エダヒゲナガハナノミの亜種:旧大畑町湯の股)
- *Hypolithus littoralis michinoku* Kishii, 2004 ミチノクマルヒサゴコメツキ(キベリマルヒサゴコメツキの亜種:風間浦村蛇浦)
- *Actenicerus nempta* Kishii, 1996 ミチノクシモフリコメツキ(青森県十和田国立公園)
- *Ampedus mutsu* Kishii, 1991 ムツチャバネコメツキ(旧大畑町薬研)
- *Dalopius mutsuensis* Ohira, 1989 ムツヒメコメツキ(八甲田山、詳細産地不詳)
- *Oedostethus ozakii* Ohira, 1995 ムツツヤミズギワコメツキ(青森市酸ヶ湯)
- *Sphecodes mutsu* Tsuneki, 1983 ムツハラアカハナバチ(十和田、詳細産地不詳)

- *Nomada mutsuensis* Tsuneki, 1986(キマダラハバチの1種:旧平賀町矢捨山)
- *Peromyscopsylla hamifer michinoku* Sakaguti, 1960 (ホソノミ科の1種:旧十和田湖町葛)

(3) 津軽

- *Gibberathrix tsugarensis* Uchida, 1952 コシダカマルトビムシ(竹館村(現平川市)・黒石市(旧山形村)青荷:古い時代にはホロタイプ標本の指定を行わずに新種記載を行うことが普通で、この場合全体のタイプ標本をシタイプ標本と呼ぶ。シタイプ標本には複数の種が含まれる可能性もあるため、研究の安定には1個体の真の基準となるレクトタイプ標本の指定が必要である。指定が行われれば、レクトタイプ標本の産地が原産地となる)
- *Lygocoris tsugaruensis* Yasunaga, 1992 ツガルミドリカスミカメ(旧平賀町軍馬平)
- *Hyphydrus laeviventris tsugaru* Nakane, 1993 ヒメケシゲンゴロウ(旧車力村コケヤチ)
- *Lyrosoma chujoi* Mroszkowski, 1959 ツガルホソシテムシ(旧三厩村竜飛)
- *Eusphalerum tsugaruense* Y. Watanabe, 2003 ツガルハナムグリハネカクシ(梵珠山沢内沢)
- *Dianous iwakisanus* Y. Watanabe, 1988 ツガルヒョウタンメダカハネカクシ(岩木山)
- *Euconnus tsugaruensis* Hoshina et Arai, 2003 ツガルツヤヒメコケムシ(西目屋村弘西林道)
- *Actenicerus tsugaru* Kishii, 1978 ツガルシモフリコメツキ(青森市油川野木和公園)
- *Ampedus tsugaru* Kishii, 1992 ツガルアカコメツキ(旧岩木町岩木山)
- *Fleutiauxellus yezoensis tsugaru* Ohira, 1994 ツガルクロミズギワコメツキ(エゾクロミズギワコメツキの亜種:青森市酸ヶ湯)
- *Lycaena euphemus tsugaruensis* Watari, 1937 ゴマシジミ(後出の *shiriyensis* のシノニム、現在の属名・種名は *Maculinea teleius*:青森市(旧滝内村)三内)
- *Holepyris tsugaruensis* Terayama, 2006 ツガルアリガタバチ(今別町)

(4) 十和田

十和田も南八甲田から十和田湖周辺までの広い範囲を漠然と指すことが多く、古いものでは原産地を特定できないものが多い。ただし、旧十和田市の範囲を示す場合は、ほとんどないと言える。青森県内の地名としては、十和田を学名・和名に持つ昆虫が最も多い。

- *Ameletus towadensis* Matsumura, 1931 トワダフタオカゲロウ(詳細産地不詳)
- *Nemoura towadensis* Kawai, 1954 トワダオナシカワゲラ(現在は *Protonemura* 属:十和田湖)
- *Isoperla towadensis* Okamoto, 1912 トワダクサカワゲラ(十和田湖)
- *Cixius towadensis* Matsumura, 1914 チャイロヒシウンカ(詳細産地不詳)
- *Idiocerus towadensis* Matsumura, 1912 トワダズキンヨコバイ(詳細産地不詳)
- *Bythoscopus towadensis* Matsumura, 1912 トワダヒロズヨコバイ(現在は *Oncopsis* 属:詳細産地不詳)
- *Deltocephalus towadensis* Matsumura, 1914(フタスジトガリヨコバイの1種、現在は *Futasujinus* 属:詳細産地不詳)
- *Lepidoscaphes towadensis* Takagi et Kawai, 1966 トワダカキカイガラムシ(詳細産地不詳)
- *Calathus callitheres towadensis* Habu, 1955 キアシツヤヒラタゴミムシ(現在は *Synuchus* 属:旧平賀町温川)
- *Eusphalerum towadense* Y. Watanabe, 1990 トワダハナムグリハネカクシ(詳細産地不詳)
- *Ampedus towadensis* Kishii, 1987 トワダアカコメツキ(旧十和田湖町谷地温泉)
- *Dirrhagus towadensis* Hisamatsu, 1960 トワダナカミゾコメツキダマシ(現在は *Rhacopus* 属:旧

平賀町)

- *Podabrus towadanus* Takahashi et Okushima, 1999 トワダクビボソジョウカイ (現在は *Asiopodabrus* 属: 旧十和田湖町猿倉)
- *Luciola cruciata towadensis* Nakane, 1987 ゲンジボタル(個体変異の範疇と考えられ、現在は原亜種のシノニムとされる: 青森市八甲田大岳鏡沼)
- *Hypebaeus towadensis* Nakane, 1985 コクロヒメジョウカイモドキ(詳細産地不詳)
- *Tritoma towadensis* Chujo, 1952 ムツホシチビオオキノコ(十和田(旧平賀町内))
- *Necydalis towadensis* Matsumura et Tamanuki, 1927 トワダホソコバネカミキリ (現在は *Necydalis solida* Bates, 1884 オオホソコバネカミキリのシノニム: 詳細産地不詳)
- *Stenhoamalus lighti* Gressit, 1935 トワダムモンメダカカミキリ(十和田湖)
- *Corethrella towadensis* Okada et Hara, 1962(ケヨソイカ科の1種: 八甲田、詳細産地不詳)
- *Megarhinus towadensis* Matsumura, 1916 トワダオオカ(青森県十和田湖)
- *Culicoides towadaensis* Okada, 1941(現在は *C. aterinervis* Tokunaga, 1937 キモンヌカカのシノニム: 詳細産地不詳)
- *Atylostoma towadensis* (Matsumura, 1916) トワダナガハリバエ(十和田湖)
- *Rhyacophila towadensis* Iwata, 1927 トワダナガレトビケラ(十和田湖畔)
- *Statherotis towadaensis* Kawabe, 1978 オオヒロオビヒメハマキ(青森市高田、タイプシリーズには十和田の標本は含まれない)
- *Ichneumon towadensis* Matsumura, 1912 トワダヒメバチ (現在は *Protichneumon platycerus* Kriechbaumer, 1895 のシノニム、和名は有効: 詳細産地不詳)
- *Mesochorus fulgurans* Curtis, 1833 トワダフタオヒメバチ(詳細産地不詳)
- *Towada flavitarsus* (Tsuneki, 1947) キュビギングチ (属名が十和田、本種のシノニムの *Crossocerus leclercqi* Tsuneki, 1959 トワダグングチ 対して新属創設: 十和田、詳細産地不詳)
- *Nomada towada* Tsuneki, 1973 トワダキマダラハナバチ(旧平賀町葛川)

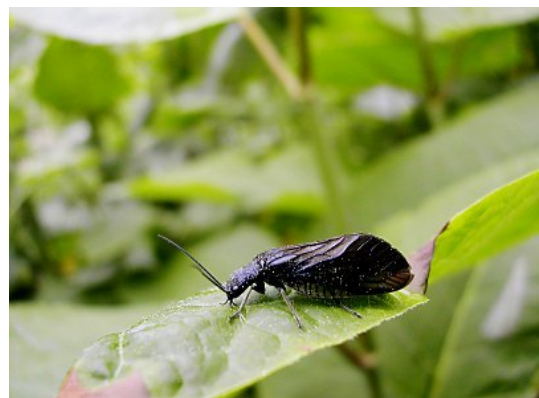
以下の2種は、十和田湖が原産地であるが、原記載を見ると秋田県側からタイプ標本が得られているのが明らかである。いずれの種でも、カタログなどの二次資料では、十和田＝青森県と短絡的な解釈で紹介されている場合が見られるので、十分な注意が必要である。なお、上記の青森県産のつもりで紹介した十和田湖産のものも、特に青森県と明記したもの以外は、実際には秋田県側で得られたものが含まれている可能性は十分ある。

- *Scopura longa* Ueno, 1929 トワダカワゲラ(十和田湖秋田県側)
- *Agrilus towadensis* Miwa et Chujo, 1940 トワダナガタマムシ(十和田湖秋田県側)

(5) 東北

いうまでもなく、東北は福島県以北の広い範囲を指すものであるが、以下では原産地が青森県内のものを紹介する。

- *Sialis melania tohokuensis* Hayashi et Suda, 1995 クロセンブリ(青森市稲山)
- *Stenus tohokuensis* Naomi & Puthz, 2006(旧岩崎村十二湖)
- *Ipelates striatipennis yamauchii* Nakane, 1988 トウホクオサシデムシ(現在は *Pelatines* 属、



[写真1] クロセンブリ

個体変異の範疇と考えられ、原亜種オサシテムシのシノニムとされる:むつ市恐山)

- *Chlorphorus tohokensis* Hayashi, 1968 トウホクトラカミキリ(旧平賀町温川)
- *Culicoides tohokuensis* Okada, 1941 トウホクヌカカ(七戸町奥羽牧場)
- *Gymnodia tohokuensis* Shinonaga et Kano, 1974 トウホクマグソイエバエ(青森市萱野高原)



[写真2] ハッコウダグンバイ

(6) 八甲田

- *Protonemura hakkodana* Shimizu, 1998 ハッコウダオナシカワゲラ(青森市八甲田山)
- *Stephanitis hakkodasana* Takeya, 1963 ハッコウダグンバイ(市町村不詳の八甲田山)
- *Nomada hackoda* Tsuneki, 1973 ハッコウキマダラハナバチ(十和田、詳細産地不詳)

(7) 十和田市奥入瀬

以下、平成の合併後に関していえば、所属する市町村が自明であるので、奥入瀬などは広がりのある地名ではあるものの、より詳細な原産地は省略する。なお、オイラセに関しては深浦町にも追良瀬があるが、こちらにちなんだ名前の昆虫は、現在までのところないようである。

- *Orthocladus oirasecundus* Sasa, 1991(ユスリカ科の1種)
- *Orthocladus oiratertius* Sasa, 1991(ユスリカ科の1種)
- *Limnophyes oiraquartus* Sasa, 1991(ユスリカ科の1種)
- *Metriocnemus oiraquintus* Sasa, 1991(ユスリカ科の1種)
- *Okinawayusurika oirasexta* Sasa, 1991(ユスリカ科の1種)(現在は *Bryophaenocladus* 属)
- *Parametriocnemus oiraseptimus* Sasa, 1991(ユスリカ科の1種)
- *Rheocoricotopus oiraprimus* Sasa, 1991(ユスリカ科の1種)
- *Syndiamesa oiraoctava* Sasa, 1991(ユスリカ科の1種)
- *Nomada osimana oirasensis* Tsuneki, 1973 オイラセキマダラハナバチ

(8) 十和田市(旧十和田湖町)鶯

- *Tanytarsus tsutaprimus* Sasa, 1991(ユスリカ科の1種)
- *Culicoides tsutaensis* Wada, 1990 ツタヌカカ

(9) 弘前市岩木山

- *Oroblemus caecus* S. Ueno et A. Yoshida, 1966 イワキメクラチビゴミムシ
- *Trechus oreas* Bates, 1883 イワキナガチビゴミムシ(現在は *Trechiana* 属)
- *Pterostichus orionis* Jedlicka, 1962 イワキオオズナガゴミムシ (本種は一時 *P. macrogenys* Bates, 1883 ニッコウオオズナガゴミムシのシノニムにされ、現在は一応復活しているが細分に過ぎるという意見もあり、種名として有効かは不確定:原産地は旧平賀町葛川で何故和名がイワキなのか不思議)
- *Trichotichnus abei* Morita, 1997 イワキツヤゴモクムシ
- *Dianous iwakisanus* Y. Watanabe, 1988 ツガルヒョウタンメダカハネカクシ
- *Coryphium iwakisanense* Y. Watanabe, 1988 (ハネカクシ科の1種)

- *Scutellathous ozakii* Ohira, 1992 イワキツヤハダコメツキ(現在は *Parathous* 属)
- *Tritoma ozakii* Narukawa, 2000 イワキチビオオキノコムシ(原産地は鱒ヶ沢町長平)
- *Nomada iwakiyamana* Tsuneki, 1986(キマダラハバチの1種)

(10) 青森市酸ヶ湯

- *Pelypedilum sukayuprimum* Sasa, 1991(ユスリカ科の1種)
- *Macropelpia sukayusecunda* Sasa et Kikuchi, 1998(ユスリカ科の1種)

(11) 平川市(旧平賀町)温川

- *Catops nurukawae* Szymczakowski, 1959 シモヤマチビシテムシ
- *Nomada nurukawa* Tsuneki, 1973 スルカワキマダラハナバチ

(12) 東通村尻屋

- *Lycaena euphemus shiriyensis* Matsumura, 1927 ゴマシジミ(現在の属名・種名は *Maculinea teleius*)
- *Argynnis adippe pallescens* ab. *shiriyana* Kono, 1926 ウラギンスジヒョウモン(ab.は異常型を示し、現在の動物命名規約では亜種未満の単位には命名しないことになっている)

(13) 白神山地

- *Trechiana albidivalis* S. Ueno, 1944 シラカミナガチビゴミムシ(深浦町天狗峠)
- *Oroblemus yamauchii* S. Ueno, 1993 シラカミメクラチビゴミムシ(旧岩崎村白神岳)
- *Pterostichus shirakamisanaus* Sasakawa, 2005 (*P. macrogenys* Bates, 1883 ニッコウオオズナガゴミムシを細分記載したものでシノニムとされる可能性がある:白神山地)

(14) 梵珠山

- *Eusphalerum bonjuense* Y. Watanabe, 2003 ボンジュサンハナムグリハネカクシ(梵珠山沢内沢)
- *Lycaenopsis sugitanii* f. *bonjusanus* Watari, 1936 スギタニルリシジミ(型名は現行の命名規約では扱わない、現在は *Celastrina* 属:旧浪岡町梵珠山)

(15) その他

その他として、青森県内の地名で、1種にしか使われていない例を列記する。

- *Polygraphus uchimappensis* Murayama, 1956 アオモリキクイムシ(既出、青森市内真部)
- *Amblyteles kuroishiensis* Uchida, 1926(現在は *Pterocormus* 属、ヒメバチ科の1種:旧黒石町)
- *Prionopoda owaniensis* Uchida, 1930(現在は *Priopoda* 属、ヒメバチ科の1種:大鱒町)
- *Trechiana triops* S. Ueno, 1994 ミツメナガチビゴミムシ(大鱒町十和田山(三目内川))
- *Nomada hiackogawa* Tsuneki, 1973 キタキマダラハナバチ(旧平賀町寒川(ひゃっこがわ)、原産地は十和田山地とのみ記載)
- *Nomada yasuteyamana* Tsuneki, 1986(キマダラハバチの1種:旧平賀町矢捨山)
- *Nomada kotomaria* Tsuneki, 1986(キマダラハバチの1種:旧小泊村)

- *Nemobius furumagiensis* Ohmachi et Furukawa, 1929 カワラスズ(旧三沢村古間木)
- *Culicoides sitinohensis* Okada, 1941(現在は *Culicoides kibunensis* Tokunaga, 1937 キブネヌカカのシノニム:七戸町)
- *Bembidion negrei* Habu, 1958 オソレヤマミズギワゴミムシ(むつ市恐山宇曾利湖畔)
- *Epilichas brunneicornis usori* Nakane, 1958 エゾヒゲナガハナノミ(むつ市恐山宇曾利湖畔)
- *Oroblemus sparsepilifer* S. Ueno, 1975 シモキタメクラチビゴミムシ(むつ市北国山)
- *Sphecodes kamafuse* Tsuneki, 1983(ハラアカハナバチの1種:むつ市釜臥山)
- *Phytocoris ohataensis* Linnavuori, 1963 オオマダラカスミカメ(旧大畑町)
- *Nomada yagensis* Tsuneki, 1973 ヤゲンキマダラハナバチ(旧大畑町薬研温泉)
- *Nomada yunokawana* Tsuneki, 1986(キマダラハナバチの1種:旧川内町湯ノ川)
- *Phloeosinus sannohensis* Murayama, 1954 サンノヘキクイムシ(三戸、詳細産地不詳)

2. 青森県に在住したことのある人名にちなむもの

(1) 新渡戸稲雄(にとべ いなお)

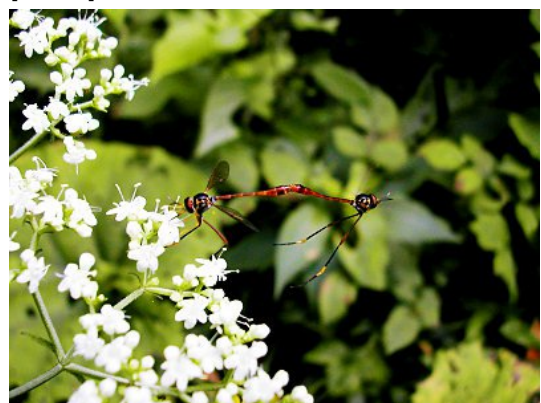
故人、新渡戸稲雄は、三本木原開拓の新渡戸家出身で、青森県農事試験場の初代昆虫掛であった。害虫研究に携わる傍ら、多くの昆虫を北海道大学松村松年博士に送り、新渡戸の名前を学名・和名に持つ昆虫が多数ある。後に台湾総督府農事試験場に移り、ニトベシロアリなど、台湾の昆虫にもその名を残しているが、本稿では青森県関係のもののみを紹介する。

なお、人名にちなむものについても、原記載などで確認できたものは、原産地を表示した。

- *Centrotus nitobei* Matsumura, 1912 ニトベツノゼミ(十和田市(旧三本木町))
- *Bythoscopus nitobei* Matsumura, 1912 ニトベヒロズヨコバイ(現在は *Oncopsis* 属:詳細産地不詳)
- *Drabescus nitobei* Matsumura, 1912 ニトベブチミヤクヨコバイ(岩木山)
- *Aconura nitobei* Matsumura, 1914 (現在は *Dortulina* 属、ヨコバイ科の1種:青森、詳細産地不詳)
- *Systropus nitobei* Matsumura, 1916 ニトベハラボソツリアブ(青森、詳細産地不詳)
- *Volucella nitobei* Matsumura, 1916 ニトベベッコウハナアブ(現在は *Volucella linearis* Walker, 1849 のシノニム、和名は有効:青森、詳細産地不詳)
- *Temnosoma nitobei* Matsumura, 1916 ニトベナガハナアブ(青森、詳細産地不詳)
- *Mahasena nitobei* Matsumura, 1931 ニトベミノガ(現在は *Mahasena aurea* (Butler, 1881) のシノニム:青森、詳細産地不詳)
- *Thosea nitobeana* Matsumura, 1931 ムラサキイラガ(現在は *Austrapoda* 属:青森、詳細産地不詳)
- *Gonodontis nitobei* [Nitobe], 1907 ニトベエ



[写真3] ニトベナガハナアブ



[写真4] ニトベハラボソツリアブ

ダシヤク(現在は *Wilemania* 属: 現黒石市(旧山形村)袋)

- *Notodonta nitobei* Matsumura, 1909 ニトベシヤチホコ(現在は *Peridea aliena* (Staudinger, 1892) のシノニム、和名は有効: 青森、詳細産地不詳)
- *Pseudoclavellaria albopilosa* Matsumura, 1912 ニトベヒラクチハバチ(現在の *P. amerinae* (Linnaeus, 1758) オオヒラクチハバチか?: 青森、詳細産地不詳)
- *Sirex nitobei* Matsumura, 1912 ニトベキバチ(青森、詳細産地不詳)
- © *Claveilaria nitobei* Matsumura, 1912(コマユバチ科の1種、現在の該当種不明: 詳細産地不詳)
- *Sychnostigma nitobei* Uchida, 1928 ニトベオナガバチ(現在は *Epirhyssa* 属: 青森、詳細産地不詳)
- *Crabro nitobei* Matsumura, 1912 ニトベギングチバチ(現在は *Lestica* 属: 青森、詳細産地不詳)

(2) 西谷順一郎(にしや じゅんいちろう)

故人、父とともにリンゴ産業の発展に尽力し、農事試験場が黒石(旧中郷村)に移転した大正時代に、一時昆虫掛として害虫研究に従事した。下記の2種はメンチュウ(綿虫)と呼ばれた、リンゴ害虫のアブラムシ。

- *Watabura nishiyae* (Matsumura, 1917) ニシヤワタアブラムシ(記載時の属名のメモ失念、詳細産地不詳)
- *Nishiyana aomoriensis* Matsumura, 1917 (既出)

(3) 下山健作(しもやま けんさく)

故人、旧平賀町在住の著名な昆虫研究家、チョウ、ハチ、甲虫などの生態研究を行った。甲虫・ハチの新種・新型を多数採集し、文献上確認できる新学名(新種・新亜種・新型)の採集者として青森県人では最多記録を誇る。それらの多くが下山に献名されているほか、県内各地の地名が学名などに使われている。

- *Bembidion shimoyamai* Habu, 1978 シモヤマミズギワゴミムシ(深浦町追良瀬)
- *Pterostichus shimoyamai* Jedlicka, 1962(現在は *Allotriopus hoplites* Bates, 1883 クリイロナガゴミムシのシノニム: 黒石市青荷)
- *Platynus dolens shimoyamai* Habu, 1974 キタクロヒラタゴミムシ(現在は *Agonum* 属で原亜種のシノニムとされる: 旧十和田湖町乗鞍岳)
- *Brachynus shimoyamai* Jedlicka, 1962(現在は *B. stenoderus* Bates, 1873 コホソクビゴミムシのシノニム: 旧平賀町葛川)
- *Catops nurukawae* Szymczakowski, 1959 シモヤマチビシテムシ(既出)
- *Hypolithus motschulskyi shimoyamai* Ohira, 1984 シモヤマミヤマヒサゴコメツキ(旧岩崎村白神岳)
- *Actenicerus yamashitai* Ohira, 1968 ホソシモフリコメツキ(現在は *A. kiashianus* Miwa, 1928 キアシシモフリコメツキのシノニムとされる。下山を山下と逆にしたものであるが、山下という姓も普通にあるものなので、こういう命名は感心しない)
- *Kensakulus* (*Melanotus* クシコメツキ属の亜属、亜属のタイプ種は *M. (K.) invectitius* Candeze, 1865 コクロクシコメツキ、現在では亜属に分割されないことが多い)
- *Bioxylus shimoyamai* Hisamatsu, 1959 ノコヒゲヒメフトコメツキダマシ(十和田、詳細産地不詳)

- *Brachypterolus shimoyamai* Hisamatsu, 1985 ウンランチビハナケシキスイ(保育社の原色日本甲虫図鑑Ⅲが原記載になるが、図鑑という性格上タイプ標本の指定はなく、その後には再記載もされていないようである)
- *Meligethes shimoyamai* Hisamatsu, 1964 チャイロチビケシキスイ(十和田(旧平賀町内))
- *Tritoma kensakui* Chujo, 1955 カタアカチビオオキノコ(旧平賀町葛川・井戸沢・小木平、レクトタイプ未指定)
- *Tritoma shimoyamai* Chujo et Nakane, 1950 クロホシチビオオキノコ(旧平賀町御判如)
- *Melandrya shimoyamai* Hayashi, 1960 ルリナガクチキ(旧平賀町葛川)
- *Mordellistena shimayamai* Chujo, 1957 シモヤマヒメハナノミ(旧平賀町小木平)
- *Macroleptura thoracica* m. *shimoyamai* Ohbayashi, 1961 オオクロハナカミキリ(m.は型を示し、現在の動物命名規約ではやはり扱わないことになっている:十和田(詳細産地不詳)、旧平賀町葛川)
- *Phymatodes maaki* m. *shimoyamai* Ohbayashi, 1958 アカネカミキリ(旧平賀町葛川)
- *Stenhomalus taiwanus* Matsushita m. *shimoyamai* Ohbayashi, 1961 タイワンメダカカミキリ(黒石市温湯)
- *Orussus rufipes* Tsuneki, 1963 シモヤマヤドリキバチ(十和田、詳細産地不詳)
- *Trypoxylon shimoyamai* Tsuneki, 1958 シモヤマジガバチモドキ(十和田、詳細産地不詳)
- *Ectemnius shimoyamai* Tsuneki, 1958 シモヤマギングチバチ(現在は *Ceratocrabro* 属:十和田、詳細産地不詳)
- *Nomada shimoyamai* Tsuneki, 1973 シモヤマキマダラハナバチ (現在は *Nomada osimana oirasensis* Tsuneki, 1973 オイラセキマダラハナバチのシノニム:既出)

(4) 鳴海良平(なるみ りょうへい)

故人、旧黒石町在住の昆虫研究家。いろいろな昆虫の調査を行った。

- *Ptenothrix ryoheii* Uchida, 1953 リョウヘイマルトビムシ(旧竹館村(現平川市))
- *Pseudoxyperus longipes narumii* Nakane et Sawada, 1956 アシナガオオキバハネカクシ(現在は原亜種のシノニムとされる:旧山形村(現黒石市))
- *Narumyia narumii* Shiraki, 1950 ナルミハナアブ(属名・種名・和名が鳴海に献名された顕著種であるが、残念ながら現在属名は *Criorhina* 属のシノニムされている:山形村(現黒石市)青荷)

(5) 福士 襄(ふくし しょう)

故人、弘前保健所、青森県環境研究所などを歴任し、弘前大学教育学部教授で退官。衛生害虫としてのアブ、ハエ類に関心を持ち、県内広く分布調査を行った。

- *Pegoplata fukushii* Suwa, 1990(ハナバエ科の1種:ただし原産地は秋田県田代町)
- *Phorbia sho* Suwa, 1991(ハナバエ科の1種:旧浪岡町梵珠山)

(6) 福田 彰(ふくだ あきら)

八戸市在住の昆虫研究家、甲虫の幼虫の生態研究で顕著な実績があり、北隆館「日本幼虫図鑑」を分担執筆している。実兄の福田進とともに、虫えいの研究でも知られる。福田進も郷土の昆虫相解明には大きな貢献をしているが、福田進に対する献名と断定される昆虫は知られていない。

- *Podabrus fukudai* Nakane et Makino, 1990 フクダクビボソジョウカイ(現在は *Asiopodabrus* 属:十和田、詳細産地不詳)

- *Tritoma fukudai* Chujo, 1941 ルリバネチビオオキノコ(現在は *Triplax* 属:八戸市)
- *Cis fukudai* Chujo, 1940 トウホクツツキノコムシ(八戸市)
- *Culicoides fukudai* Wada, 1990 フクダヌカカ(八戸市種差)
- *Rhodite fukudae* Shinji, 1941 ハマナスメトゲコブタマバチ(現在は *Diplolepis* 属:八戸市)

(7) 阿部 東(あべ あずま)

弘前市在住の昆虫研究家、甲虫・チョウの分布研究・染色体研究で知られる。現行の国際動物命名規約第4版では、属グループ名以上への献名は、生物学上の貢献が顕著な者に限るよう勧告があり、アオモリナガゴミムシの亜属名として阿部の名前が使用されているのは、その実績にふさわしいものである。

- *Pterostichus (Abea) yamauchii* Morita, 1992 アオモリナガゴミムシ(既出)
- *Trichotichnus abei* Morita, 1997 イワキツヤゴモクムシ(既出)
- *Panagaeus abei* Nakane, 1997(ヨツボシゴミムシ属の1種:中里町(岩木川河川敷))
- *Drapetes abei* Nakane, 1985 クロバヒゲブトコメツキ(鱒ヶ沢町乱岩ノ森)
- *Podabrus abei* Nakane et Makino, 1981 アベクビボソジョウカイ(現在は *Hatchiana* 属:大鰐町十和田山)
- *Leptophloeus abei* Sasaji, 1986 ヒゲナガホソチビヒラタムシ(深浦町追良瀬)



[写真5] アベクビボソジョウカイ

(8) 葛西 充(かさい みちる)

青森市在住のガ類研究者。

- *Brabira kasaii* Sato, 1986 チャホシホソバナミシヤク(東通村大和)
- *Zanclognatha sviridovi* Owada, 1992 カサイヌマアツバ(旧木造町平滝沼)

(9) 山内 智(やまうち さとし)

青森県立郷土館の動物担当学芸主幹。

- *Carabus albrechti yamauchii* Takami et Ishikawa, 1997 ヤマウチクロオサムシ(鱒ヶ沢町白神岳!)
- *Oroblemus yamauchii* S. Ueno, 1993 シラカミメクラチビゴミムシ(既出)
- *Pterostichus (Abea) yamauchii* Morita, 1992 アオモリナガゴミムシ(既出)
- *Tribalus yamauchii* M. Ohara, 1999 アオモリアナアキエンマムシ(既出)
- *Eusphalerum yamauchii* Y. Watanabe, 2003 ヤマウチハナムグリハネカクシ(梵珠山沢内沢)
- *Ipelates striatipennis yamauchii* Nakane, 1988 トウホクオサシテムシ(既出)

(10) 尾崎俊寛(おざき としひろ)

現在は秋田県西大館病院医師。弘前大学医学部出身の津軽昆虫同好会主力メンバーで、青森県の甲虫相解明に非常に実績ある研究家。

- *Othius latus ozakii* Ito, 1993 トビイロホソハネカクシ(現在は原亜種のシノニムとされることが多い:青森市城ヶ倉)
- *Scutellathous ozakii* Ohira, 1992 イワキツヤハダコメツキ(既出)
- *Oedostethus ozakii* Ohira, 1995 ムツツヤミズギワコメツキ(既出)
- *Tritoma ozakii* Narukawa, 2000 イワキチビオオキノコムシ(既出)

(11) 市田忠夫(いちた ただお)

この報告の筆者。津軽昆虫同好会会員で青森県農林総合研究センター(農事試験場の後身)職員。これまで県内ではあまり研究されていなかった昆虫グループの分布研究を主に行っている。

- *Lygocoris ichitai* Yasunaga, 1991 ハナアカミドリカスミカメ(旧十和田湖町葛)
- *Podabrus ichitai* Takahashi et Okushima, 1999 イチタクビボソジョウカイ(現在は *Asiopodabrus* 属:青森市稲山)
- *Apethymus ichitai* Togashi, 1994 (クリハバチ属の1種:青森市萱野茶屋)

(12) その他

その他として、青森県産種関係では、1種の昆虫のみに名前がみられる研究者に献名されたものの。

- *Sialis mitsuhashii* Okamoto, 1910 ネグロセンブリ(三橋信治は札幌農学校(現北海道大学農学部)を経て農事試験場2代目昆虫掛として赴任。その後、東京大学農学部、農商務省農事試験場を歴任。日本の昆虫の文献記録、特に名称の変遷について、500冊近い大学ノートに記したものは、「三橋ノート」と呼ばれ、農業環境技術研究所に保管されており、現在も分類学研究者に活用されている。学名は *Sialis japonica* van der Weele, 1909のシノニムとされたが、和名は現在も有効:青森、詳細産地不詳)
- *Chelonus munakatae* [Munakata], 1912 ムナカタコウラコマユバチ(棟方哲三は農事試験場3代目昆虫掛、健康に恵まれず二十代の若さで早世するが、在職中は主に水稻害虫の研究を行い、本種や既出のアオモリコマユバチはニカメイガの天敵。これらの昆虫は、松村松年博士に研究を依頼し、松村の考えた新称を棟方が農事試験場特別報告や昆虫世界等の雑誌に報告したものである。原記載では命名者は Matsumura となっているが、現行の命名規約では、実際に原稿の執筆を行った者が命名者となるので、Munakata が命名者となる。学名の表示では原記載時と命名者名が異なっていることを示すため、Munakata が角括弧で囲われている:青森、詳細産地不詳)
- *Culicoides tatebeae* Kitaoka, 1991 タテベヌカカ(武部千秋は、現在つがる家畜保健衛生所総括主幹、姓の正しい読みは「たけべ」:東通村)
- *Nippononebria sawadai* Nakane, 1979 イドダケマルクビゴミムシ(沢田博史はやぶなべ会28代会員:青森市八甲田井戸岳)
- *Tachyerges nakamurai* Morimoto et Miyakawa, 1996(ノミゾウムシの1種、中村剛之は弘前大学理学部から九州大学大学院に進学し学位を取得、現在栃木県立博物館学芸員:弘前市一野渡林道)

3. 習俗に関するもの

青森県の重要無形文化財である、ねぶた(ねぶた)祭りを学名に持つ昆虫もあるので、本報の最後に紹介する。

- *Leptocarabus arboreus nepta* Ishikawa, 1984 ムツクロナガオサムシ(コクロナガオサムシの亜種:既出)
- *Actenicerus nempta* Kishii, 1996 ミチノクシモフリコメツキ(既出)

以上を総合すると、青森県にちなんだ地名・人名・ねぶた祭りに関係する昆虫の名称は、現在では使用されないものを含めると 200 近くあることになる。これは一端として、青森県が自然に恵まれ、熱心に昆虫を調べた研究者がいたことを示すものである。しかしながら、私が第一に強調したいことは、昆虫はこのように多様であり、これから調べなければならないことがたくさん残されているということである。上記の名称のうち、2000 年以降に命名されたものだけでも、10 種を数えるのである。一般に生物の新種が発見されるのは、すごいことと思われている節があるが、昆虫に関しては決してそうではない。まだまだ研究途上なのであり、採集を伴う昆虫の調査は、これからもますます必要である。採集を罪悪視する歪んだ自然保護観こそ、自然に対する関心を失わせ、真の保護には、むしろ有害であることは、現在の社会状況から疑う余地がない。